



TITLE:

天文語彙 : 天界第二號附録

AUTHOR(S):

海老, 恒治

CITATION:

海老, 恒治. 天文語彙 : 天界第二號附録. 天界 1920, 1(2): 5-8

ISSUE DATE:

1920-11-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159519>

RIGHT:

天文語彙

海老恒治編

(あ の 部……………續き)

アルゴール(Algol) ベルセウス座ベーター星。赤經三時二分、赤緯北四〇度三四分、變光星、分光型B。一六六九年モンタナリが始めて此星の變光する事を發見し、一七八三年グッドリック始めて其の變光週期二日二〇時四九分たる事を決定した。

變光の範圍は二三等から三・五等まで、平常は二三等の光を維持して居るが一週期毎に三・五等以下に下る。此種類の星は外に尙數十個あつて總て之等をアルゴール型變光星と云ふ。變光の原因は輝星と暗星とが相互の引力で公轉して居る間に時々光の一部分が遮にぎられるに由るといふグットリックの考は今日も廣く信じられて居る。近年米國のステツピンスが精密なる光度觀測をした結果に由れば暗星が輝星のために遮にぎられて第二の變光を起すといふ事が知れた。(變光星を見よ)

アルザケル(Atrachel) 中世ムーア國の天文學者一〇八〇年トレードに於てトレッド表を發表した。

アルシオン星(Alyone) 牡牛座エーター星。赤經三時四一分、赤緯北二三度四八分、光度三・〇、分光型B。すばる團(昴宿)の首星。(すばるを見よ)

アルズーフヒ(Al Sufi) アラビアの天文學者。第十世紀バグダッドに於て觀測に従事す。歲差の値として五五秒なる結果を得た。又恒星の目錄を發表しトレミーのアルマゲストを改良した。(九〇三生、九八六死)

アルタイル(Altair) 鷲座アルファ星。赤經一九時四六分、赤緯北八度三六分、光度〇・九、分光型A5。支那では昔から牽牛と稱へ七夕に祭る星である。視差〇・二四秒、距離一四光年、一秒三五キロの運動をして居る。(たなばた參照)

アルデバラン(Aldebaran) 牡牛座アルファ星。赤經四時三十分、赤緯北一六度一九分、光度一・一等、

分光型 K5。昔しから「牡牛の眼」として知られてゐる星である。色は幾分赤い。冬の夕天頂に輝く距離二十八光年。固有速度一秒三・一キロ。

アルバタニ (Al Battani) ラテン名でアルバタグニ

ユース (Albategnius) のアラビアの天文學者、バグダッドに於て觀測に従事す。特に太陽、月及び諸遊星の運動を研究し新しい遊星表を發表した。一年の長さを三六五日五時四六分二二秒と決定し、尙又近點年の長さを發見した。(八七八生、九一八死)

アルファ (Alpha) ギリシャ文字廿四字の最初。一六

〇三年バイエル (Bayen) が星の名を附けた時に各星座中の最も光の強き星を凡てアルファと名附けた (二、三例外はある)。

アルファ、セントウリ (Alpha Centauri) センタウル

ス座の首星。赤經一四時三三分、赤緯南六〇度二五分、光度〇・三、分光型 G。我太陽系に最も近い星で距離は四・三光年 (視差〇・七六秒—視差として測定された最初)。又有名なる連星で太陽程の大きさを持つた二星が八十一年で廻つて居る。

アルフラガヌス (Alfraganus) 紀元九百年頃のアラ

ビア天文學者。トレミーのアルマゲストを訂正増補した人である。

アルベードー (Albedo) 物體の表面に受けた光を反射する能率を云ふ。地上の諸物體に付いては左表の如し。

白雲及雪 〇・七八 白砂 〇・二四
白紙 〇・七〇 土壤 〇・〇八
遊星のアルベードーはランベルト (Lambert) が用いたもので其表面の性質を知るのに重要なものである。

月	〇・一三	木星	〇・六二
水星	〇・一四	土星	〇・七二
金星	〇・七六	天王星	〇・六〇
火星	〇・二二	海王星	〇・五二

アルマゲスト (Almagest) 古代ギリシャ天文大家ト

レミー (Ptolemy) の著書で紀元後一四〇年頃出たもの、其當時迄の天文に關した智識を總て網羅して居る。全卷十三章より成り、地球、月、太陽の關係、各遊星の軌道、それから一〇二八箇の恒星表及び天の河論等を含んで居る。所謂天動說の一大權威で殆ど千三百年間の學界を支配し、ギリ

シャ・ローマの哲學及び基督教の神學を支持した。
アルマゼスト 前項を見よ。

アルマムーン (Almamun) 第九世紀のアラビア王。
 天文學に熱心して國都バグダットに天文臺を造り
 觀測を奨勵した。其在世中ベルシャ灣の沿岸に於
 て地球の大きさを測定せしめたのは斯界の大功績
 である。

アルマンスール (Almansur) 第八世紀のアラビア王。
 學術の奨勵を盛んにし印度より天文及び醫術の大
 家を多數招き、後世のアラビア文化の基を開いた。

アルミユカンター (Almucantar) 地平面に平行した
 小圓を天球上に假想したもの。天體の位置を表は
 す一座標として用いられる。

又米國人**チャンドラー** (Chandler) が一八八四年頃
 星の位置を測定し、それに由つて緯度變化の現象
 を發見した機械の名。(緯度變化を見よ)

アルレニウス (Svante Arrhenius) スウェーデン國
 ストックホルム市ノーベル學院教授。輻射壓の理
 論を應用して彗星の尾の形に關する有力なる學說
 を發表した。

其他天體論及宇宙論等に關する著述が多い。其
 中「宇宙開闢論史」其他數種は邦語にも譯されて居
 る。(一八五九生、現存)

哑鈴狀星雲 (Dumb-bell Nebula) 赤經一九時五五分
 赤緯北二二度二七分。遊星狀星雲の一つ、望遠鏡
 で見た形が飄蕁形であるから有名である。メシヤ
 ー表第二七番或はドライエルの N.G.C. 表第六八
 五三番である(星雲を見よ)。

アレキサンドリア (Alexandria) 紀元前三三二年ア
 レキサンダー大王がナイル河の河口に造つた大市
 街で、其後八百年間ギリシャの學術技藝に關する
 世界的の中心であつた。天文學上に於てもターレ
 スを始め多くの學者が此地で研究をした。就中ア
 リステイルス、チモカリス、トレミー等最も有名で
 ある。

アレキパ天文臺 (Arequipa Observatory) 一八九一年
 南米ペルーの山嶺に建てられたもので北米合衆
 國ハーバード天文臺の出張所である。二十四時
 の反射望遠鏡及び十三吋屈折望遠鏡を持つて星の
 寫眞、光度スペクトル等が觀測せられ従つて各種

の新発見も多い。

アレゲニー天文臺

(Allegheny Observatory) 北米合

衆國ペンシルバニア州ピッツバーグ大學附屬で十九世紀中頃からラングレイ (Langley) キーラー (Keeler) 等が代々の臺長として活動した。今は三十時の屈折望遠鏡を有し星の運動に付いて重要な觀測をして居る。

あをぼし青星 (Blue Star) 一般に青綠色の光を多量に持つた星。スペクトルは多くハーヴァード式のB型である。主なるもの其數凡そ八百、多くは天の河に集中して、我宇宙の中核を形成して居る。

各星の實光力は略一定して我太陽の百倍ある。

あんせい暗星 (Dark Star) 星の中には光を發しないものがある。之を暗星と云ふ。(自ら發光しないと云ふ丈では我太陽系の諸遊星等も此暗星中に入る筈であるが別の意味に於て述べるから此處には省く。太陽系を見よ) 之等は太抵附近の輝星に及ばず力學的或は光學的影響に依つて發見されたもので、例ばアルゴール種變光星は輝星の光が暗星に遮られて起るのだと考へられてゐる。(近年ス

テピンスの第二變光發見により此の暗星も全く無光でないといふ知れた。) 又一八三四年ベッセルはシリウス星の不規則運動が附近の暗星の引力によるものだと考へた(此れは後に大望遠鏡で發見されたから嚴密な意味の暗星でない。) 一般に新星なるものも出現前までは暗星と考へられるが此れも近年は出現前既に微光を放つて居る例が多く認められる。——それで今日までの暗星は皆大抵眞の暗星でなく寧ろ微光星らしい。眞の暗星は今後の問題であらう。

アントレス星

(Antares) 蝸座アルファ星。赤經一六

時二三分、赤緯南二六度一三分、光度一・二、分光型Ma。アントレスとは火星の對抗者の意で其色及光の似た所から來た名で支那名は大火と云ふ。赤星の一つで實光力は太陽の百八十倍、距離九十光年、側に七等星を伴つて居る。

アンドロメダ

(Andromela) トレミーの星座の一、

カシオペイアの後でペガサスの東、ペルセウスの西。十一、二月の夕暮天頂に來る。アベガ三星は三等星、其中ア星は所謂ペガサス方形の一角を形成して居る。ガ星は有名なる三重星。(次項參照)